

令和4年度「保育プロセスの質リフレクションシート」活用支援事業実施要項

1 趣旨

『保育プロセスの質リフレクションシート』は、静岡大学教育学部 田宮縁教授の監修のもと、保育環境の改善や園内研修の充実を目的として開発したツールである。(令和2年4月に各市町、園に配布)

本シートの活用により、情報提供者によるエピソード記述やチェックシートによる自己評価をもとに、参加者同士が自身の実践や保育観・子供観について語り合うことを通して、短時間でも主体的で対話的な園内研修が可能となる。その効果を高めるためには園内研修においてファシリテートが効果的に行われることが必須であるため、本シートを活用した研修を通し、その内容や進め方について確認し合う研修を実施する。

2 派遣対象

- (1) 市町幼児教育主管課または市町教育委員会が主催する研修（政令市を含む）
- (2) 幼児教育関係団体が主催する研修

3 研修方法

希望する市町幼児教育主管課または市町教育委員会、幼児教育関係団体は、下記のAまたはBのいずれかの研修方法を選択し研修を行うこととする。

- A 各園の研修担当者等が本シートを活用した研修を実施し、その内容や進め方について理解を深める。
- B 各園の研修担当者等が指定された園における本シートを活用した研修を参観し、研修の進め方やファシリテーターの役割についての理解を深める。

4 日程（例）

研修方法A

- ア 趣旨説明（幼児教育センター） 5分
- イ 本シート作成の意図やねらいについて（静岡大学 田宮教授） 25分
- ウ グループ協議：第1部～第3部 50分
- エ 講評（静岡大学 田宮教授） 10分
- ※ 開会前に、ファシリテーターへの説明を15分程度行う。

研修方法B

- ア 挨拶（静岡大学 田宮教授・幼児教育センター） 5分
- イ 指定された園における研修（1グループ）の実施と参観 50分
- ウ 参観者からの質疑や意見交換 25分
- ※イ及びウのファシリテーターは講師の田宮教授が行う。
- エ 講評（静岡大学 田宮教授） 10分

5 市町担当課または幼児教育関係団体における準備

- (1) 事前に行うこと

研修方法A

- ア 開催通知を発送し参加者を募る。
- イ 参加者を6名以内のグループに分け、各グループに報告者とファシリテーターを各1名指名する。報告者には、シート第1部を作成するよう依頼する。

* 作成したものはグループ参加人数+2部用意し、当日配布できるようにする。ただし、ファシリテーターには事前に送付することが望ましい。

ウ 研修会の次第、参加者名簿を用意する。

研修方法B

ア 開催通知を発送し参加者を募る。

イ 園内研修を実施・公開する園を指定する。作成したエピソードは、研修日の2週間前までに幼児教育センターに提出する。

ウ 研修会の次第、参加者名簿を用意する。

(2) 当日行うこと

ア 会場のセッティング

イ 司会進行

(3) 事後行うこと

各園、所から提出された「様式3 事後調査票（園・所用）」及び「様式4 事後調査票（市町担当者・幼児教育団体用）」を幼児教育センターに電子メールまたは郵送にて送付する。

6 申込手順

(1) 申込

令和4年度（6～2月）に本事業の実施を希望する市町担当課または幼児教育団体は、令和4年4月28日（木）までに様式1（申込書）を電子メールにて幼児教育センターに提出する。ただし、締切り終了後に希望をする場合は、電話で確認後、申し込む。

(2) 決定

幼児教育センターは、市町または幼児教育団体の実情や日程等を勘案した上で5月中旬までに研修開催の可否を決定し連絡する。

なお、研修開催日については、順次、幼児教育センターと研修担当者との話し合いにより決定する。

また、当該市町の幼児教育アドバイザー（指導主事）とも可能な範囲で連携した開催となるように相談をする。

(3) 計画書の提出

研修開催市町または幼児教育団体は、実施日の1か月前までに、様式2（計画書）を電子メールで提出する。

7 その他

(1) 研修実施後、概ね3か月以内に各園において『保育プロセスの質 リフレクションシート』を活用した園内研修を実施し、各園は様式3（事後調査票）を幼児教育センター宛てに電子メールにて提出する。

(2) 田宮教授及びセンター職員の派遣に関わる旅費や謝金についての負担はなしとする。

静岡県幼児教育センター（静岡県教育委員会義務教育課）

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号

メールアドレス：kyoui_gimu@pref.shizuoka.lg.jp

電話：054-221-3287 FAX：054-221-3558